

同志社大学歴史資料館調査研究報告第7集

同志社大学構内遺跡発掘調査報告書

(2003・2005年度)

岩倉大鷲町地点発掘調査報告

今出川キャンパス・クラーク記念館地点発掘調査報告

同志社大学旧大学会館地点（室町殿）第3期発掘調査報告

「伊勢守」屋敷跡・相国寺旧境内（図書館西地点）発掘調査報告

2007

同志社大学歴史資料館

序

同志社大学では、2001年度以降岩倉校地・今出川校地の整備事業を行ってまいりました。いずれのキャンパスも、下層に重要な埋蔵文化財が存在し、同志社大学歴史資料館ではこれに関連する発掘調査を多数行ってまいりました。すでに、岩倉校地の同志社小学校校舎地点や今出川校地における本学寒梅館地点・臨光館地点・元北志寮地点の調査結果に関しては、発掘調査報告書を刊行して、学術情報の開示を行っています。今回、本書の刊行によって、2003年度・2005年度に行った調査の成果を公開したく存じます。

本書に掲載いたしましたのは、岩倉校地の外国人客員教員宿舎（看山ハウス）建設、今出川校地のクラーク館改修・寒梅館通路改修工事・コジェネレーション建設に関わる調査成果です。岩倉校地では、古代の条里関連の遺構が検出されました。岩倉盆地での古代土地開発の実態を示す貴重なデータです。今出川校地では、室町～戦国時代の上京における町家・武家屋敷にかかわる遺構群が検出されて、中世末期の京都を知る上で重要な調査成果となりました。

このような校内遺跡の調査を、学内機関が継続して行う意義は少なくありません。膨大な出土品の管理、本資料館や学内施設での出土品展示公開、調査学術情報の継続的なweb上での公開など、これまで行ってきた諸活動を本資料館中心に総合的に行えるメリットは大きいと考えています。今後は、このような調査体制を維持拡大して、大学が行う教育・研究活動に関連付けていくことが本資料館の重要な役割と考えています。また、こういった文化遺産の活用によって地域社会への貢献を行う努力も続けていく所存です。今後とも本資料館の活動に、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2007年 5 月

同志社大学歴史資料館
館長 齊藤 延喜

目 次

序文

(齊藤延喜)

岩倉大鷲町地点発掘調査報告 1

(市澤泰峰・鋤柄俊夫・渡辺悦子)

今出川キャンパス・クラーク記念館地点発掘調査報告 29

(市澤泰峰・鋤柄俊夫・中川敦之・疋田由香里)

同志社大学旧大学会館地点（室町殿）第3期発掘調査報告 37

(鋤柄俊夫・竹井良介・谷口浩史・中村尋・松本尚子)

「伊勢守」屋敷跡・相国寺旧境内（図書館西地点）発掘調査報告 65

(池田公德・若林邦彦)